

高島流和砲

この大砲は、江戸時代(1603~1868年)末期に長崎の砲術家、高島秋帆(1798~1866年)の弟子が西洋の武器や戦術を研究して作ったと考えられている。

1800年初頭、秋帆は西洋と日本の武器の技術格差、特に日本に大砲や火器がないことを懸念していた。出島に住むオランダ人貿易商から仕入れた銃器を研究し、自ら作る方法を学んだ。1834年、秋帆はこれを形式化して高島流砲術を完成させた。しかし西洋の技術を支持したとして1842年に江戸(現在の東京)で捕らえられ、投獄された。1853年、マシュー・ペリー提督(1794~1858年)率いる艦隊が来航し、日本政府に技術的にも軍事的にも劣勢であることを確信させるまで、彼は捕虜となった。その後、罪を許されて放免された秋帆は、1856年に徳川幕府の軍師となった。

採用番号 NO :	023-020
-----------	---------